

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	愛知みずほ大学
設置者名	学校法人 瀬木学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人間科学部	心身健康科学科	夜・通信	0	7	41	48	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p><シラバスへの掲載方法について> 本学では、全ての科目のシラバスを1冊に纏めた冊子をシラバスと定義しています。</p> <p>① 各科目のシラバスに実務経験のある教員が担当していることを示す欄を設けています。</p> <p>② 具体的な実務経験の内容及び授業にどの様に活用しているか等の詳細については、シラバス内の別ページ(p. 230-232)に掲載しています。</p> <p>③ 実務経験のある教員及び担当している科目一覧は、シラバス(冊子のも)内の別ページ(p. 233)に掲載しています。</p> <p style="text-align: center;">https://www.mizuho-c.ac.jp/assets/pdf/jitumu_tec.pdf</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	愛知みずほ大学
設置者名	学校法人 瀬木学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人瀬木学園 ホームページ https://www.aichi-mizuho.ac.jp/honbu/aboutus/division.html
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元（財）私立大学退職金 財団常務理事	2019. 4. 1- 2023. 3. 31	財務
非常勤	学校法人日本大学第三 学園理事長	2017. 4. 1- 2021. 3. 31	経営計画策定
非常勤	元 愛知県教育委員会教 育長	2018. 4. 1- 2022. 3. 31	組織運営体制
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	愛知みずほ大学
設置者名	学校法人 瀬木学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>																					
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><シラバス作成基準> 愛知みずほ大学シラバス作成要綱 https://www.mizuho-c.ac.jp/assets/pdf/syllabus_create.pdf</p> <p><シラバス本文> 愛知みずほ大学シラバス https://www.mizuho-c.ac.jp/assets/pdf/99_syllabus2020.pdf</p> <p><履修基準> 愛知みずほ大学履修規定 https://www.mizuho-c.ac.jp/assets/pdf/risyu_program2020.pdf</p> <p><シラバスの記載有無></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>掲載</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業の方法</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>授業の内容(授業科目の概要)</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>年間の授業の計画</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>到達目標</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>成績評価の方法・基準</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>実務経験のある教員等による授業科</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>授業時間外に必要な学修の内容</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>再試験の対象となる基準</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>補習授業の対象となる基準</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p><スケジュール></p> <ol style="list-style-type: none"> ① ～10月下旬：シラバス検討委員にて次年度シラバス作成案をとりまとめる ② 12月初旬：次年度科目担当予定者にシラバスの作成を依頼する ③ 1月下旬：次年度科目担当予定者が作成したシラバスに関して、シラバス検討委員会にて内容等の確認及び次年度科目担当予定者にフィードバックする ④ 2月下旬：次年度シラバスにフィードバックされたことを反映する ⑤ 3月下旬：シラバス(冊子)の発行及びホームページで公開する 		内容	掲載	授業の方法	○	授業の内容(授業科目の概要)	○	年間の授業の計画	○	到達目標	○	成績評価の方法・基準	○	実務経験のある教員等による授業科	○	授業時間外に必要な学修の内容	○	再試験の対象となる基準	×	補習授業の対象となる基準	×
内容	掲載																				
授業の方法	○																				
授業の内容(授業科目の概要)	○																				
年間の授業の計画	○																				
到達目標	○																				
成績評価の方法・基準	○																				
実務経験のある教員等による授業科	○																				
授業時間外に必要な学修の内容	○																				
再試験の対象となる基準	×																				
補習授業の対象となる基準	×																				
授業計画書の公表方法																					
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>																					

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

成績の基準については、愛知みずほ大学履修規程に定められている。成績評価の方法については、各科目のシラバスに記載されている基準にて適切に評価し、単位認定を行っている。

<愛知みずほ大学コモンルーブリック>

レポート、プレゼンテーション、グループワーク、実技の4つの学習課題について、学生が到達すべき具体的な姿を示した「コモンルーブリック」を作成しています。各授業で活用される際には、教員によりこの表に従って課題の到達度に対する評価が行われ、学生はルーブリックを課題に取り組む指針とすることができます。なお、「コモンルーブリック」は卒業までに学生が身に付けることが期待されるレベルを想定して作成されていますので、各授業では、教員により観点毎に期待値が設定されます。また、科目の到達目標や課題の内容に応じて、新たな観点を加えるなどアレンジが行われることもあります。

- ① レポートの評価基準と期待値
- ② プレゼンテーションの評価基準と期待値
- ③ グループワークの評価基準と期待値
- ④ 実技の評価基準と期待値

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

判定	評語	評点	GP	評価基準
合格	秀	100～90点	4.0	目標を十分に達成し、極めて優秀な成績を収めている。
	優	89～80点	3.00	目標を十分に達成し、優れた成績を収めている。
	良	79～70点	2.00	目標を概ね達成している。
	可	69～60点	1.00	目標を最低限達成している。
不合格	不可	59～0点	0.00	目標を達成していない。
	時不	—	0.00	授業の出席が総授業時間数の3分の2に満たない。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

<GPAの算出方法(計算式)>

- ① 成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という)を算出し、総合成績評価を行う。履修した科目のポイントにその科目の単位数を掛け、取得したポイントを合計する。合計ポイントをその学期の履修登録単位の総数で割り、小数点以下第3位を切り捨てた数字をGPAとしています。
- ② 単位認定が保留となった授業科目のGPは0点とする。
- ③ 認定又は合否により判定する授業科目については算出の対象外とする。
- ④ GPAの算出は、次のとおりとする。
$$GPA = (\text{授業科目で得たGP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} \div (\text{履修登録したGPが付与される授業科目の単位数の総和})$$

※GPAの分布については別紙資料のとおり。

<実施状況>

各学期末に以下のGPAを算出しています。

- ① 通算GPA (入学～現在のGPA)
- ② 年度GPA (当該年度のGPA)
- ③ 学期GPA (当該年度の全ての学期のGPA)
 - ※ 前期GPA算出時には後期分のGPAについては算出しない、
 - また、前期GPA算出時の年度GPAは前期のGPAとする

<GPAの活用状況>

GPAは、成績の分布状況及び学生個人の学修状況の把握を通じて、履修登録の年間上限数の緩和、各種学外実習の要件、奨学金受給の判定基準及び退学勧告を含む学修指導ならびに就職活動及び海外留学支援において活用しています。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

https://www.mizuho-c.ac.jp/assets/pdf/gpa_style.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

<愛知みずほ大学ディプロマ・ポリシー>

本学は、以下のような能力を身につけた者に対して学位を授与します。

知識・理解

人間の心身の健康について基礎的・専門的な知識を体系的に身につけている。

- A 身体を健康を理解し、説明することができる。
- B 心の健康を理解し、説明することができる。
- C 多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

汎用的技能

健康な社会人として生きるための基本的な技能を身につけている。

- A コミュニケーションスキルを身につけている。
- B 情報リテラシーを身につけている。
- C 目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

態度・志向性

適切な自己管理ができ、社会の一員として地域や家庭の健康に貢献できる。

- A 自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。
- B 健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。
- C 地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

総合的活用

修得した知識、技能、態度を総合的に活用して、健康な社会の実現のために課題を発見し、解決方法を探ることができる。

- A 社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
- B 健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
- C 専門分野の能力

本学の3つのポリシーは一貫性のある内容にて作成されており、PDCAサイクルに沿って適切に実施されている。特にC（評価）については以下の取り組みにて、適正化が図られている。

<AMC学修成果ルーブリック>

AMC学修成果ルーブリック活用し、取得科目よりディプロマ・ポリシーの達成度を計り、卒業判定に生かしています。

<AMC学修成果振り返りシート>

学生は学期毎に、取得科目及びルーブリックにより自己評価を行い、ディプロマ・ポリシーで求めている能力等の修得状況を、AMC学修成果振り返りシートに記載しています。それを基づき、担任型学修コンシェルジュは学生の修学支援、指導に活用しています。

<卒業認定のプロセス>

- ① 愛知みずほ大学学則及び愛知みずほ大学履修規定で定められた基準を満たした学生を特定する。
- ② ①で特定された学生に対し、AMC学修成果ルーブリック及びAMC学修成果振り返りシートに基づき、教務・学生委員会（大学の教務を司る機関）において審議・判定を行う。
- ③ ②の判定結果について、運営委員会（学長の補佐機関）が妥当性を判断し、学長に答申する。
- ④ ③の答申を受け、学長が卒業認定を行う。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://www.mizuho-c.ac.jp/policy/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	愛知みずほ大学
設置者名	学校法人 瀬木学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	法人 HP (https://www.aichi-mizuho.ac.jp/image/honbu/report/balancesheet/balancesheet_2020.pdf)
収支計算書又は損益計算書	法人 HP (https://www.aichi-mizuho.ac.jp/image/honbu/report/incom/keisansho_2020.pdf)
財産目録	法人 HP (https://www.aichi-mizuho.ac.jp/image/honbu/report/propertylist/propertylist_2020.pdf)
事業報告書	法人 HP (https://www.aichi-mizuho.ac.jp/image/honbu/report/report_2020.pdf)
監事による監査報告(書)	法人 HP (https://www.aichi-mizuho.ac.jp/image/honbu/report/auditreport/auditreport_2020.pdf)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 2020年度主要事業計画 対象年度: 2020年度)
公表方法: 法人 HP (https://www.aichi-mizuho.ac.jp/honbu/report/business.html)
中長期計画(名称: 教学改革を主軸とする第2次中期計画 対象年度: 2016~2021年度)
公表方法: 法人 HP (https://www.aichi-mizuho.ac.jp/honbu/plan/plan.html)

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.mizuho-c.ac.jp/assets/pdf/35w_jikotenkenhyokasho.pdf

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間科学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.mizuho-c.ac.jp/policy/)
(概要) 本学は、WHO 憲章の精神に則って、健康科学を基本とする人間科学に関する専門的知識・技術を身につけた人材の育成と研究の推進を大学の使命としています。 各人が生涯にわたって、健康を保持しつつ、人間そのものについての深い理解と生きがいをもって充実した生活を過ごせる社会の実現を目指して、「健への探究—豊かで活力ある健康社会に貢献する人をめざして—」をカレッジモットーにしています。その目的を達成するための具体的な方針として、「ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)」「カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針)」「アドミッション・ポリシー (入学者受け入れの方針)」を策定しています。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.mizuho-c.ac.jp/policy/)
(概要) ＜愛知みずほ大学ディプロマ・ポリシー＞ 本学は、以下のような能力を身につけた者に対して学位を授与します。 知識・理解 人間の心身の健康について基礎的・専門的な知識を体系的に身につけている。 A 身体 の健康を理解し、説明することができる。 B 心 の健康を理解し、説明することができる。 C 多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。 汎用的技能 健康な社会人として生きるための基本的な技能を身につけている。 A コミュニケーションスキルを身につけている。 B 情報リテラシーを身につけている。 C 目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。 態度・志向性 適切な自己管理ができ、社会の一員として地域や家庭の健康に貢献できる。 A 自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。 B 健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。 C 地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。 総合的活用 修得した知識、技能、態度を総合的に活用して、健康な社会の実現のために課題を発見し、解決方法を探ることができる。 A 社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。 B 健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。

C 専門分野の能力

本学の3つのポリシーは一貫性のある内容にて作成されており、PDCAサイクルに沿って適切に実施されている。特にC（評価）については以下の取り組みにて、適正化が図られている。

<AMC学修成果ルーブリック>

AMC学修成果ルーブリック活用し、取得科目よりディプロマ・ポリシーの達成度を計り、卒業判定に生かしています。

<AMC学修成果振り返りシート>

学生は学期毎に、取得科目及びルーブリックにより自己評価を行い、ディプロマ・ポリシーで求めている能力等の修得状況を、AMC学修成果振り返りシートに記載しています。それを基づき、担任型学修コンシェルジュは学生の修学支援、指導に活用しています。

<卒業認定のプロセス>

- ① 愛知みずほ大学学則及び愛知みずほ大学履修規定で定められた基準を満たした学生を特定する。
- ② ①で特定された学生に対し、AMC学修成果ルーブリック及びAMC学修成果振り返りシートに基づき、教務・学生委員会（大学の教務を司る機関）において審議・判定を行う。
- ③ ②の判定結果について、運営委員会（学長の補佐機関）が妥当性を判断し、学長に答申する。
- ④ ③の答申を受け、学長が卒業認定を行う。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.mizuho-c.ac.jp/policy/>）

（概要）

本学は、ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づき、「豊かで活力ある健康社会に貢献する人」を育成するため、以下のようにカリキュラムを編成し、実施します。

- ① カリキュラムは、「未来デザイン講座（探す）」「未来をひらく基礎科目」「未来を創る実践力形成科目」「専門科目」「教職に関する科目」から構成され、授業科目を体系的かつ系統的に配置しています。
- ② 卒業時に身につける能力は、基礎から専門へと段階を踏んだ積み上げによって獲得されます。
- ③ 履修する科目の意義は、科目の目指すところ（知る／理解する／応用・展開する）と授業科目間のつながり（順次性や系統性）を示すナンバリングやカリキュラム・ツリーによりの確に知り、科目選択や学修に役立てることができます。
- ④ コースの専門性を担保するために、コースごとに必修科目を設けています。また、学生一人ひとりの思いや志向を学びに反映できるように、学科共通選択科目を設けて科目選択の自由度を確保しています。
- ⑤ セメスター制（2学期制）を基本としていますが、学修目標を達成しやすくするために、短期間で集中的に学ぶクォーター制（4学期制）を併用します。
- ⑥ 学生がカリキュラムを通して丁寧に学び、着実に学修成果を上げることができるように、担任学修コンシェルジュが学生一人ひとりを支援します。さらに多様な専門性を持った専門学修コンシェルジュが目標達成を支援します。
- ⑦ 4年間の学修成果は、ルーブリックなどの指標により、いつでも経過を確認できます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.mizuho-c.ac.jp/policy/>）

（概要）

本学では、「健への探究—豊かで活力ある健康社会に貢献する人をめざして—」というカレッジモットーに端的に示された建学の精神を理解し、科学的な視点で「心と身体」の両面から健康について学び、自分や社会に活かしたいという目的意識がある学生を求めます。入学者に対しては以下のような資質を備えていることを期待し、多様な人材を受け入れるために、多様な入試選抜方法を設けています。

<知識・技能>

高等学校までに培われる基礎学力を身につけている人

<思考力・判断力・表現力>

伝えたい内容を、よく考えて、論理的に表現できる人

<関心・意欲・態度>

① 人間の心身の健康及び社会の健康について関心がある人

② 健康について主体的に取り組む意欲がある人

③ 人とのつながりの中で、コミュニケーションや相手のことを大切にする人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.mizuho-c.ac.jp/organization/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2人	—					2人
人間科学部	—	12人	9人	0人	0人	0人	21人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		42人					42人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://www.mizuho-c.ac.jp/faculty/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間科学部	130人	154人	118%	540人	564人	104%	10人	0人
合計	130人	154人	118%	540人	564人	104%	10人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間科学部	90人 (100%)	1人 (1%)	75人 (83%)	14人 (16%)
合計	90人 (100%)	1人 (1%)	75人 (83%)	14人 (16%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p><シラバス作成基準> 愛知みずほ大学シラバス作成要綱 https://www.mizuho-c.ac.jp/assets/pdf/syllabus_create.pdf</p> <p><シラバス本文> 愛知みずほ大学シラバス https://www.mizuho-c.ac.jp/assets/pdf/99_syllabus2020.pdf</p> <p><履修基準> 愛知みずほ大学履修規定 https://www.mizuho-c.ac.jp/assets/pdf/risyu_program2020.pdf</p> <p><シラバスの記載有無></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>掲載</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業の方法</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>授業の内容（授業科目の概要）</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>年間の授業の計画</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>到達目標</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>成績評価の方法・基準</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>実務経験のある教員等による授業科</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>授業時間外に必要な学修の内容</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>再試験の対象となる基準</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>補習授業の対象となる基準</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table> <p><スケジュール></p> <p>①～10月下旬：シラバス検討委員会にて次年度シラバス作成案をとりまとめる</p> <p>②12月初旬：次年度科目担当予定者にシラバスの作成を依頼する</p> <p>③1月下旬：次年度科目担当予定者が作成したシラバスに関して、シラバス検討委員会にて内容等の確認及び次年度科目担当予定者にフィードバックする</p> <p>④2月下旬：次年度シラバスにフィードバックされたことを反映する</p> <p>⑤3月下旬：シラバス（冊子）の発行及びホームページで公開する</p>	内容	掲載	授業の方法	○	授業の内容（授業科目の概要）	○	年間の授業の計画	○	到達目標	○	成績評価の方法・基準	○	実務経験のある教員等による授業科	○	授業時間外に必要な学修の内容	○	再試験の対象となる基準	×	補習授業の対象となる基準	×
内容	掲載																			
授業の方法	○																			
授業の内容（授業科目の概要）	○																			
年間の授業の計画	○																			
到達目標	○																			
成績評価の方法・基準	○																			
実務経験のある教員等による授業科	○																			
授業時間外に必要な学修の内容	○																			
再試験の対象となる基準	×																			
補習授業の対象となる基準	×																			

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

<愛知みずほ大学ディプロマ・ポリシー>

本学は、以下のような能力を身につけた者に対して学位を授与します。

知識・理解

人間の心身の健康について基礎的・専門的な知識を体系的に身につけている。

- A 身体を健康を理解し、説明することができる。
- B 心の健康を理解し、説明することができる。
- C 多様な人々が暮らす社会を理解し、説明することができる。

汎用的技能

健康な社会人として生きるための基本的な技能を身につけている。

- A コミュニケーションスキルを身につけている。
- B 情報リテラシーを身につけている。
- C 目標をかかげ、計画を立てて実行し、振り返り、考え、改善していくことができる。

態度・志向性

適切な自己管理ができ、社会の一員として地域や家庭の健康に貢献できる。

- A 自分の健康づくりの目標を持ち、その実現に向けて自ら考え、積極的に行動することができる。
- B 健康な組織・集団の構築に向けて、チームワークを大切にし、リーダーシップを発揮することができる。
- C 地域や家庭の健康について関心や使命感を持ち、改善の提案ができる。

総合的活用

修得した知識、技能、態度を総合的に活用して、健康な社会の実現のために課題を発見し、解決方法を探ることができる。

- A 社会貢献や地域活動を通じて、健康の意義を社会に広めていくことができる。
- B 健康な社会の実現に向けて、創造的なアイデアを持つことができる。
- C 専門分野の能力

本学の3つのポリシーは一貫性のある内容にて作成されており、PDCAサイクルに沿って適切に実施されている。特にC（評価）については以下の取り組みにて、適正化が図られている。

<AMC学修成果ルーブリック>

AMC学修成果ルーブリック活用し、取得科目よりディプロマ・ポリシーの達成度を計り、卒業判定に生かしています。

<AMC学修成果振り返りシート>

学生は学期毎に、取得科目及びルーブリックにより自己評価を行い、ディプロマ・ポリシーで求めている能力等の修得状況を、AMC学修成果振り返りシートに記載しています。それに基づき、担任型学修コンシェルジュは学生の修学支援、指導に活用しています。

<卒業認定のプロセス>

- ① 愛知みずほ大学学則及び愛知みずほ大学履修規定で定められた基準を満たした学生を特定する。
- ② ①で特定された学生に対し、AMC学修成果ルーブリック及びAMC学修成果振り返りシートに基づき、教務・学生委員会（大学の教務を司る機関）において審議・判定を行う。
- ③ ②の判定結果について、運営委員会（学長の補佐機関）が妥当性を判断し、学長に答申する。
- ④ ③の答申を受け、学長が卒業認定を行う。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人間科学部	心身健康科学科	124 単位	有・無	44 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 : https://www.mizuho-c.ac.jp/assets/pdf/gpa_style.pdf		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : <https://www.mizuho-c.ac.jp/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
人間科学部	心身健康 科学科 (1年)	690,000円	300,000円	335,000円	施設設備整備費:20,000円 教育充実費:315,000円
	心身健康 科学科 (2,3,4 年)	690,000円	0円	255,000円	厚生費:20,000円 教育充実費:235,000円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学では学生の就学支援のための部門として、学修支援センターを設置しています。学修支援センターには学修コンシェルジュが任命されており、学生の修学に係る様々な支援を行っています。</p> <p>① 学修コンシェルジュによる相談・助言</p> <p>学修コンシェルジュには、担任型と専門型の2種類があり、担任学修コンシェルジュは、高等学校までの担任に近い存在としての役割を担っており、日常的に学生の学修や学生生活を援助します。また、担任学修コンシェルジュは入学時に決められ、卒業するまで継続して支援を続けますが、必要に応じて交代することもあります。</p> <p>専門型の学修コンシェルジュには目指す進路・資格に応じて適切な指導ができる人員を配置し、場面場面に応じた適切な助言します。</p> <p>② オフィスアワー</p> <p>本学ではオフィスアワーを設けています。教員が学生の相談を受けるために研究室などあらかじめ指定した場所に必ず待機しています。訪問の目的は限定していないため、学業や学生生活全般に関する質問、相談あるいは個人的な指導・助言等を受けるため、雑談でも差し支えがありません。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>本学では進路選択に係る支援を一括で行うための部門としてキャリアセンターを設置しています。</p> <p>キャリアセンターでは、「就活は何をすればよいのか」「自分に適した職種は何なのか」など、就職活動に不安を抱える学生に様々な視点からサポートできるよう、学生全員と個別面談を行っています。</p> <p>この面談は、学生に将来を考えるきっかけを与えるだけでなく、キャリアセンターの職員が学生一人ひとりの性格や適正などを把握する機会にもなっており、学生が求める条件に見合う最適な求人の紹介や、きめ細かい就職活動のサポートを実現しています。また、個別面談の際には、ジェネリックスキル測定テスト「PROG」を活用し、性格や適性といった定性的な視点だけでなく、就職活動に活かすことのできる強みや克服すべき課題を定量的に診断しています。</p> <p>現在の自分の強み・弱みをしっかりと把握した上で、それらを克服・改善していくことができるため、学生一人ひとりが社会に出るための自信向上にもつながっています。</p>

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

概要)

<支援組織>

愛知みずほ大学では、学生の心と体をサポートする施設として、以下の2施設を設置しています。

- ① 学生相談室（兼任1名）
- ② 保健室（専任1名、兼任2名）

<学生相談室の活動内容>

学生相談室には、学生相談の専門家である臨床心理士が配置されており、毎週月曜日（授業実施日に限ります）の14～17時の時間帯に相談業務行っています。

また、学生相談室は通常学生が利用する施設から離れた場所に配置されており、利用者のプライバシーに配慮したものとなっています。

<保健室の活動内容>

(概要)

本学では、「保健室」を1号館に設置し、養護教諭・看護師を配置して、けがや体調不良の学生の応急処置を始め、日々の健康管理や健康相談を行っています。

このほか、多様化した相談や支援に応じられるよう「学生相談室」を設け、臨床心理士を配置し、専門家の支援を個別に必要とする学生を支援しています。チューター及びアシスタント・チューター並びに保護者とも連携しながら支援を行っています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.mizuho-c.ac.jp/faculty/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	愛知みずほ大学
設置者名	学校法人 瀬木学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		0人	0人	0人
内 訳	第Ⅰ区分	0人	0人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				0人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0 人	0 人	0 人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	0 人	0 人	0 人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0 人	0 人	0 人
「警告」の区分に連続して該当	0 人	0 人	0 人
計	0 人	0 人	0 人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0 人	前半期	0 人	後半期	0 人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0 人
3月以上の停学	0 人
年間計	0 人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。